



第39号
 国立市泉3-15-7
 堀田勲 576-0995
 印刷: ジャノメサービス

OBとして母校への貢献とは

支部長 堀田 勲



平成十六年度の事業も順調に推移し、新年度を迎えることとなりました。これも役員をはじめ、会員の皆様方のご支援のおかげと深く感謝いたしております。

私は学員会支部の目的は常々三つあると思っております。

会員相互の親睦、母校への貢献、地域社会への貢献であります。

我が支部は創設以来、会員相互の親睦交流に力を置き、旅行会、新年会等には他支部には見られない家族の参加を積極的にすすめて、いわゆる家族ぐるみのお付き合いを実現してまいりました。この状況を評して国立支部は

「仲良しクラブ」とも云われております。確かに会員各位は市の内外を問わず、各方面で活躍しておりますが、同じ学員なるがゆえにお互いに情報を交換し、協力し合うと言うことも多々あります。

「この問題ならあの人に相談してみよう」とか、他人から「誰か適任者はおりませんか」などと相談を受けた時に、すぐに思いつく人材がまわりにいるとか、これらは会員ひとりひとりにとりまして心強いことであり、また地域への貢献、母校の存在をアピールするという面からとても大事なことであります。それをささえるのは普段の会員相互のおつきあい、そこから生まれる相互の信頼感がベースであると確信しております。

次に地域社会への貢献であ

りますが、これも支部創設以来「くにたち市民まつり」「さくらフェスティバル」「グリーン多摩川などへの積極的な参加」「中央大学芸術講演会」の開催など他大学のOB会に先んじてすすめてまいりました。いまでは市民に国立白門会として、広く知られるようになりまして、昨年は中央大学と支部名を染め抜いたブルゾンもつくり、我が母校を大いにPRしております。それなりの成果が上がっているものと思っております。

最後に母校への貢献であります。一言で貢献といいますが、具体的に何をするのが貢献なのか、何が出来るのか、とても難しい問題であります。

先に述べました「会員相互の親睦」「地域社会への貢献」も間接的ではありますが、母校への貢献につながるものだと思います。

いま、まさに創立一二五周年記念の募金活動の最中であり、母校への寄付、これは貢献という面からすると非常に具体的でわかりやすいのであります。お金だけ出せばいいのかという何となくむなししい気がいたします。私は同じ寄付をするにしても「仕方が無く」ではなくて自分自身の母校への想いが寄付という行為の

出発点にあるような気がいたします。母校への想いは人それぞれであります。大学には何の世話にもなっていない、就職先も自分でさがした、という人もいればその逆の人もいるかもしれません。

私はこれほど具体的な例ではなくても、一生に一度の青春を縁があつて中大で送り、社会に出てからはどちらの大学ですか」と聞かれて、「中大です」と答え、今はこのようにOB会で皆様と一緒できる。これも中央大学を卒業できたからだと思います。いや、思うようにしていません。

最近、八王子の長池橋の近くにある結婚式の社長さんと親しくなりました。ちよつとしたきつかけでお話をしているうちに社長さんから「知り合いに中大のOBがたくさんいる」という話になり、共通の知人の名前も出てきて、「いや、あの御見せしました」ということになり、それ以来大変お世話になっております。こんなとき本当に中大を卒業してよかつたと思つてしまいます。

先般の支部長会議で募金活動の進捗状況の報告がありました。十年の募金期間のほぼ三分の一が経過しておりますが、募金額は目標額の三分の一に達していないというところでし

た。スタート時の勢いということとを考慮すると、残りの期間で目標額を達成することは大変困難なことだと思います。また、他大学のこうした募金活動と比較した場合、金額は大差が無いということですが、募金者の比率(卒業者に占める募金者の割合)が極端に少ないということとだそうです。他大学に比較して母校への想いが希薄だということでしょうか。私はそうは思いたくありません。

我が支部には山口副会長を長とする募金委員会も発足しております。金額の多少に関係なくひとりでも多くの会員の皆様にご協力をお願いする次第であります。

「中央大学創立一二五周年

記念事業募金状況」

記念事業募金推進本部事務局により、五月末現在の募金状況は左記の通りです。

- 目標金額 百億円
- 申込金額 三十二億七千万円
- 国立支部募金申込金額 七億二千四万円 (十四名)
- 近隣支部募金申込金額
- 日野支部 八百五十五万円
- 八王子支部 四百八十五万円
- 立川支部 三百七十九万円
- 三鷹支部 二百四十三万円

石和（いさわ） 温泉一泊旅行

国立白門会恒例の一泊旅行は石井副幹事長の企画により、山梨県の石和温泉と周辺の名所旧跡の見学に決まった。六月二十七日十時谷保駅前に集合した十四名の参加者は旅館さしむけのマイクロバスに乗車、中央高速道路を一路忍野八海に向かった。当地は何度か訪れた方も多く、皆さん余裕、ここで、名物のおそばをいただき、昼食。次に向かったところは最近完成した「富士山リーダードーム館」。以前富士山の頂上に丸いドーム状の建物があることにお気づきの方も多いとおもいますが、これが気象観測上、大活躍の富士山リーダー。気象衛星にその役割をバトンタッチし、その大きな役割を後世に伝えるべく、この立派な建物が出来たという訳です。中には山頂の気温、風速を体感できる装置などもあって、大変面白い施設でした。皆様も一度行ってみたいいかがでしょうか。

そのあとは御坂峠を通過して石和温泉「ホテル京水荘」へ。一風呂浴びた後はお待ちかねの宴会場へ。今回は奥様同伴の会員も多く、静かな幕開けとなったが、それもつかの間、旅館御用達の「たいこもち」ならぬ「宴会や」が突然現れ、いっきにぎやかになった。カラオケも次から次と曲がかり途絶えることもない。庄巻は韓国ブームにあやかって風間幹事長、ご夫人がチヨゴリ（旅館が用意）に身を包んで

現れ、堂々の歌唱力、まいった。そのほかにも中国風の帽子をかぶった岡本さんのとぼけた口調でのマジック、これがまた面白い皆さん大爆笑。ときの経つのもわずれ、楽しい宴会でした。

翌日はまたマイクロバスで出発、まずは恵林寺に到着、歴史の重みを感じつつ建物の中を見学しました。続いてハーブ庭園へ、案内人の軽妙な説明に、ついついおみやげを買い込んでしま。次に向かったところは「桃狩り」会場の浅間園、園内では食べ放題ということで皆さん食べるは、食べるは、一人で七、八個も食べた人もおりました。果物かごを手にして一路帰宅の途に。中央道を快適に走り、バスは八王子料金所へ、運転手さんが料金を払っているとき、突然バンという音と同時に車が持ち上がるような衝撃、見れば右側後輪に大きな亀裂が入り、パンク。もしも高速走行中と同じことが起きれば大事故にもなりかねず、停車中で本当にラッキーでした。ノロノロと側道を石川サービスエリアまで走り、そこからタクシーで国立まで帰ってきました。到着をまちかかして思わぬハプニングがありました。楽しい旅行でした。幹事さん疲れさまでした。



方光寺にて あじさいがきれい



熱演中の岡本さん



風間さま熱唱

加賀野井先生をお招きして 学術講演会を開催

十月三日(日)「これでいいのか日本の教育」と題して国立公民館にて学術講演会が開催され、大勢の市民が聴講した。文教都市である国立市民は教育問題には特に関心が深く、いろいろな考え方、意見を持つ人が多い街である。

小・中学校での国旗、国歌の問題でマスコミが全国的にも報道したこともあった。それだけに、今回の演題に関心を持った市民も多かったのかも知れない。参加された市民の方々は良心的な人たちがばかりで安心しました。また、講師の加賀野井先生は昨年「おまかせ社会の日本があぶない」に引き続き、二度目の登壇だったので、楽しみに来てくださった方も大勢いたようだった。

講演は、最近の若者の言葉遣いやカタカナ語の氾濫、日本語化した英語の多用など言語面から教育を考察された先生の分かりやすい語り口が好評で講演が終わった後の質疑も活発に行われ、大盛況のうちに終了した。



中央大学学術講演会

扇の的落とし

田口正明

昭和二十八年法学部卒



NHKの大河ドラマ「義経」が、放映されている。このドラマは、宮尾登美子訳の平家物語に取材している。

むかし、日本海海戦という日本の国運をかけた日露戦争があった。この海戦では「皇国の興廃、この一戦にあり。各員いっそう奮励努力せよ」という東郷連合艦隊司令長官の訓示が思いだされる。また、秋山作戦参謀が起草した「本日、天気晴朗なれども波高し・・・」という訓示も思いだされる。この名文は、平家物語の「扇の的落とし」から取材したものである。

屋島の激しい戦いに疲れた源平両軍は、勝敗を明日に延期することとした。このとき、平家の軍船のなかから豪華にかざりつけた船がなぎさに横づけして止まった。

「あれはどうしたことだ」と不思議に思い見ていると、船のなかから紅の袴で正装した美女が現れた。彼女は、金の日の丸の扇をつけた竿を舳先に立て、海岸に陣をかまえる源氏にラブコールを送った。「あれは、なにごとだ」「あの扇を射ってみよ、という平家の挑発でしょう。近づくと危険です。」

前に出ないでくださいが、義経はまだわず扇の的落としの一番バッテリーに、那須の与一を起用した。与一はさら飛ぶ鳥をも落とす弓の名手である。「どうだ」と。あの扇の真ん中を射ぬいて、平家にお前の腕前を見せてやれ」

扇の的落としの支度をととのえた与一は、源平両軍が見守るなかを、騎馬姿で渚へあらわれた。この扇には、平家の戦勝祈願がこめられている。扇は、安芸の厳島神社に奉納されていたものである。源氏は、この扇をどうしても落とさなければならぬ。落とせば源氏の勝ち。不成功におわれれば平家の勝ちとなる。源氏としては、どうしても負けられない。

与一が馬を海中に乗り入れたころ、北風が激しく吹き出した。打ち寄せる波は、高くなった。扇をかかげた船は高まる波に大きく揺れうごいた。竿の先に立てられた扇は安定せず、ひらひらと揺れ動いた。この様子を、船上の平家は固唾をのんで見守った。海岸に陣をかまえる源氏もまた、馬のくつわをならべて見守った。与一は、海の平家、陸の源氏の双方から視線をあびた。与一は、静かに目をとじ戦勝を祈願した。わたしを故郷の那須へ帰りたいと思ふなら、どうかこの矢をあの扇の的に命中させてください、と祈った。目をひらくと、風は弱まった。扇は射やすくなった。与一は、矢をつがえた。じゅうぶんに引きつけ、ビューンと放った。矢はうな

りをあげ、扇の的を射ぬいた。矢は海上へ落ちた。扇は空へ舞い上がり、春風に乗りゆつくりと海上へ落ちた。金の日の丸の扇は、夕日を浴び波の上を浮き沈みした。この情景を見た平家は、船端をたたいて感嘆した。源氏もまたえびらをたたいて歓声をあげた。

平家物語は、このときの状況を「北風激しく吹きければ、磯打つ波も高かりけり・・・」と描いている。この名文を下敷きにして、東郷連合艦隊司令長官は「本日、天気晴朗なれども波たかし・・・」と訓示し、軍艦旗を高だかとかかげた。

ホームカミングデーに参加しましょう

十月二十三日(日)

中大多摩キャンパス

楽しいイベントがいっぱい

近隣支部の物産展もあります

ご一緒に出かけましょう

参加希望者は風間幹事長に

ご連絡をTel. Fax 042-575-0237

恒例の新年会は市役所地階 ハーベストで

新年会は1月23日 会員の奥様も多数参加され、はなやいだ雰囲気の中にゲームもあり、皆さん楽しいひとときをすごしました。



学術講演会

日時 十一月十三日(日)

午後二時

場所 くにたち公民館

演題 インターネット

時代の子どもたち

講師 文学部教授

古賀正義先生

支部役員 (任期 2年間)

- 顧問 市橋千鶴子、谷 清、酒井 博
- 能味寿哉
- 相談役 福谷実、山村鶴音、藤村俊夫
- 支部長 堀田 勲
- 副支部長 丸本大、小島泰義、山口康雄
- 高橋雅幸
- 幹事長 風間 健
- 会計 真見 敬
- 理事 二宮 巍、枝根 亨、石井 孝
- 阿部正行、上田邦雄、川村俊介、山川昌一、新倉良平、平本聖子

平成16年度 国立白門会決算書

自平成16年4月1日 至平成17年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算	予算	科目	決算	予算
年会費	207,000	300,000	印刷費	94,500	100,000
総会会費	175,000	150,000	総会費	182,371	250,000
寄付、祝金	72,000	0	交際費	104,751	150,000
特別収入	182,820	30,000	親睦行事費	132,166	150,000
125募金活動助成金	116,500	60,000	通信費	67,750	100,000
125寄付金受入	3,000	0	会議費	8,950	30,000
雑収入	5,006	0	事務用品費	6,747	50,000
前年度繰越金	783,197	783,197	雑費	1,255	30,000
			125寄付金支出	100,000	100,000
			125寄付積立支出	3,000	
			周年事業積立金	100,000	100,000
			予備費	0	263,197
			次年度繰越金	743,033	
合計	1,544,523	1,323,197	合計	1,544,523	1,323,197

平成17年5月6日

会計 高橋雅幸 印
 会計監事 山川昌一 印

平成17年度 国立白門会予算案

自平成17年4月1日 至平成18年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
年会費	3000円×100名	300,000	印刷費	白門会ニュース	100,000
総会会費	5000円×30名	150,000	総会費		250,000
特別収入	さくら祭、市民祭	30,000	交際費	近隣支部総会祝金他	150,000
125募金活動助成金		10,000	親睦行事費	納涼会、新年会他	150,000
前年度繰越金		743,033	通信費	会員連絡他	100,000
			会議費	役員会他	30,000
			事務用品費		30,000
			雑費		10,000
			125寄付金支出		100,000
			周年事業積立金支出		100,000
			予備費		213,033
合計		1,233,033	合計		1,233,033

平成16年度活動報告

- * 4/4 (日) 「さくらフェスティバル」(雨のため中止)
- * 6/3 (木) ゴルフコンペ
- * 6/13 (日) 第27回定時総会
- * 6/27 (日) 一泊旅行 (石和温泉)
- * 7/19 (日) 納涼会
- * 10/3 (日) 中央大学学術講演会
- * 10/11 (日) くにとちウオーキング
- * 10/24 (日) 中央大学ホームカミングデー
- * 11/3 (日) くにとち市民まつり
- * 11/15 (日) 三多摩連絡協ゴルフ
- * 11/21 (日) 秋のクリーン多摩川
- * 1/23 (日) 新年会(市役所地下ハーベスト)
- * 3/13 (日) 春のクリーン多摩川

- * 6/13 (日) 白門会ニュース38号
- * 役員会 毎月1回

平成17年度活動計画

- * 4/3 (日) 「さくらフェスティバル」参加
- * 6/18 (日) 第28回定時総会
- * 7/18 (月) 納涼会
- * 7/21 (木) ゴルフコンペ
- * 9/11 (日) 一泊旅行
- * 10/10 (月) くにとちウオーキング参加
- * 10/23 (日) 中央大学ホームカミング
- * 11/3 (木) くにとち市民まつり
- * 11/13 (日) 中央大学学術講演会
- * 11/ 秋のクリーン多摩川
- * 1/22 (日) 新年会
- * 3/ 春のクリーン多摩川

- * 8/14 (日) 白門会ニュース39号
- * 役員会 毎月1回